人生を輝かせる山登りのススメ(第49回)

国境の島、対馬で山旅を楽しむ

2019.06.21



平成から令和へ。新しい時代を迎えた5月、皆さんはいかがお過ごしでしたか？私は、4月末から5月初めにかけて、長崎県にある対馬の山に登ってきました。長崎県は「日本一島の数が多い県」で、対馬市は島の89%を山地が占める「日本一名前の付いている山の数が多い市町村」なのです。一方で、昔から「国境の島」としての重要な役割を担ってきました。今回はそんな対馬の山に登りながら、島独特の自然と国境の島としての歴史に触れてみたいと思います。

大陸と日本の間に位置する島

対馬は九州と韓国の間にある対馬海峡に浮かぶ島です。「浮かぶ」とはいっても、南北約82㎞、東西約18㎞で、東京23区や琵琶湖よりも大きな面積があります。福岡県の博多港から高速船やフェリーが出ていますが、対馬までの航路は約130㎞。一方、島の北端から韓国までは直線距離50㎞ほどの国境の島です。

対馬は、かつては大陸とも日本列島とも陸続きで、後に孤島となったと考えられています。そのため、大陸系生物のツシマヤマネコ、日本本土系生物のツシマテンが同地に生息するなど、大陸と日本、両方の動植物が見られる特殊な環境にあります。

対馬の特長として、山好きの私が見逃せないのが「日本一山の数が多い」という部分。東京都23区を含む日本の市町村は1741ありますが、その中で名前の付いた山の数が最も多いのが対馬市なのです(山と溪谷社刊『日本の山を数えてみた』による)。対馬市には177もの山があり、同率第2位の栃木県日光市、新潟県阿賀町の129山を大きく上回ります。

地形が複雑でもともと小ピークが多い対馬の山々。名前の付いた山の数が多い理由は、山城や海からの目印として山が利用されてきた歴史があり、名前がないとどの山を指しているのか分からないからではないか、と推測されています。

原始の自然が残る白嶽… 続きを読む